

第二回ふるる杯雪合戦



★1月19日～20日小学校3年生から6年生を対象に1泊2日で主催事業『ふるる冬キャンプ』が開催されました。当日はそれまでの雨や吹雪から一転して好天に恵まれ、参加児童みなさんが楽しみにしていました雪合戦大会にのぞむ事ができました。

今回も『昭和新山国際雪合戦』NPO 法人雪合戦インターナショナル様からお借りした公式用具を用いて、6チームに分かれて公式ルールに基づいておこないました。当日6名の学生ボランティアのお兄さん、お姉さんが参加されまして、各チームにひとりずつ付いてお手伝いいただきました。



★1日目開会式のあと、さっそく試合会場の屋外、ふるる中庭に出てストレッチ体操、続いて試合フィールドである雪合戦ジュニア用コート内を行進しました。次に三角コーンを的にして、各チームごとに投球の練習です。

公式ジュニア用コートは幅8m×長さ32mあり、中心線から自軍陣地側と敵陣側とに分かれています。中心に1カ所、自軍コート内に3カ所、計7カ所の雪球から隠れることのできる「シェルター」(木製)と、各々自軍チームフラッグが設置されています。



室内に戻っての休憩をはさんで、いよいよコートの中で練習試合の開始です。6チームのうち2チームが試合をしている間、ほかの2チームは審判員。もう2チームは次の試合用の雪球作りです(公式では雪玉と書かずに雪球)。ルールでは1試合中に使用できるのは前もって用意した雪球90個までと言う制限があります。これを自軍最後尾のシェルター(シャトーと呼びます)の後ろに置いておきます。



さて、公式のルールでの勝敗ですが、単純に雪球を投げ合うだけではありません。チームメンバーは「フォワード」と「バックス」の役割に分かれて戦います。雪球を当てて、敵を全滅させるか?雪球を避けて進み、敵のチームフラッグを奪取するか?で勝敗は決まります。ですが、敵陣に侵入できるのは3人まで。また「フォワード」は自軍の最終バックラインには戻れないので、球の補給は「バックス」からの受け渡しに頼みます。練習試合ではまだルールに不慣れなためか、全員がな



かなか動こうとしない展開でした。食堂での夕食後、夜は2日目の本試合にむけて各チームのフラッグ作りと作戦会議をしました。

★そして、いよいよ2日目の本試合です。1試合3分間。時間の都合、各チーム4試合ずつの変形リーグ戦で競い、勝ち点の多いチームが優勝です。昨日の練習とは打って変わって、今度はなかなか早い試合展開!



意外に被弾は少なく、フラッグを狙いに行きます。35秒で決着がつく試合もありました。なかには敵味方ともに気づいていないエリアから回り込んで難なくフラッグをゲットした子や、ボックス3人同時に球を投げつくしてしまい、立ちすくんだ状態での目の前でフラッグを取られる。というような試合展開も……。負けてしまったチームでも、果敢に



攻める活躍をして目を見張る選手がいたり、あと一歩と言うところで被弾したり、互いに討ちあいの果てに、決着がつかず時間切れで引き分けだったり、たくさんのドラマが生まれていました。

今回の「ふるる冬キャンプ」、本当に好天に恵まれ、児童全員が一生懸命に試合に参加し、どのチームも頑張って1勝はしていました。みんなで雪合戦を楽しんで満足した顔で帰路についていた事と思います。



Aチーム「ブラッキーズ」

Bチーム「ゴールド」

Cチーム「スーパーC」



Dチーム「FVP (フォーエバービクトリーパワー)」・ Eチーム「Snow Angel スノージェル」・ Fチーム「ふるるりんご」



★優勝の栄誉に輝いたのは3つのチームに勝利したDチーム「FVP (フォーエバービクトリーパワー)」でした。

